

10月-11月のイベント

 親子でつくるう工作教室 くるくる 笛	10/5 日 13:00-14:30	吹いたら伸びる「吹き戻し」を手作りして楽しめます。	要予約 定員：親子6組 料金：100円 (高校生以下)
 さんべの森たんけんたい 秋の森であそぼう	10/5 日 10:00-14:00	どんぐりや松ぼっくりを使った秋ならではの遊びと たき火で楽しめます。 <i>対象：幼児～小学校低学年を含む家族</i>	要予約 定員：親子8組 料金：大人300円 小学生以下：100円
 秋の天体観察会	10/11 土 10/12 日 ①19:00-19:45 ②20:00-20:45	10月の3連休も2夜連続で天体観察会を開催します。 天の川や土星などの天体をお楽しみください。 <i>※9月1日(月)よりホームページにて受付開始</i>	要予約 定員：60名 料金：大人300円 小中高生：100円
 ススキの迷路	10/11 土 ～ 11/3 月	北の原のススキ草原にススキの迷路が出現。 期間中は誰でも自由に遊ぶことができます。	
 化石発掘体験	10/11 土 14:00-16:15	貝などの化石発掘を体験。地層観察のポイントを 伝授します。(実施場所：出雲市佐田町大呂) <i>※抽選制/1ヶ月前より予約フォームもしくは電話で受付</i>	要予約 定員：20名 料金：1名/500円
 親子でつくるう工作教室 カタカタくんだり	11/2 日 13:30-14:30	立てた木の上を人形がカタカタと音をたてながら下 るおもちゃを作ります。	要予約 定員：親子6組 料金：100円 (高校生以下)
 公演会 オーロラ上映会	11/22 土 13:15-14:45	"オーロラメッセンジャー"中垣哲也氏による公演会。 世界各地で撮影した美しい映像や写真を解説とと もにビジュアルドームで紹介します。	要予約 定員：100名 料金：入館料
 熟睡プラ寝たリウム	11/23 日 ～ 11/30 日 13:15-14:15	静かな語りと音楽で眠りにいざなう「寝ちゃっても いい」プラネタリウムです。 <i>対象：中学生以上</i>	定員：各回100名 料金：入館料
 親子でつくるう工作教室 落ち葉アート	11/30 日 13:30-14:30	コナラやカエデクヌギ…。色とりどりの落ち葉を使っ て作品を作ります。	要予約 定員：親子6組 料金：100円 (高校生以下)

－ 期間展示 －

第5回日本星景写真協会写真展

星の風景 2025

10/18 土 ～ 11/24 月

星空と地上の風景を同一画面に
おさめた星景写真。星空を見上
げた時の感動を表現した作品の
数々をお楽しみいただけます。

◀ 安田幸弘「立山の天の川」

 三瓶自然館：0854-86-0500  三瓶小豆原埋没林公園：0854-86-9500
(さんべ縄文の森ミュージアム)  三瓶山北の原キャンプ場：0854-86-0152

※ **要予約** マークのイベントは1ヶ月前より電話にて予約受付を行います。

※ イベントが変更・中止の場合はHP等でお知らせします。※ 毎週土曜日の天体観察会は予約制 (HPから、その他はお電話) で実施しています。

※ 4～11月の毎週土曜日「北の原お散歩ツアー」、日曜日・祝日「天文ミニガイド」は入館された方を対象に予約不要で開催しています。

島根県立三瓶自然館サヒメル

○開館時間/9:30～17:00

○休館日/毎週火曜日

(火曜日が祝日の場合は翌平日)

年末年始、その他、メンテナンス休館あり



三瓶フィールドミュージアムニュース <隔月発行>

編集・発行 公益財団法人しまね自然と環境財団

〒694-0003 島根県大田市三瓶町多根1121-8

TEL 0854-86-0500/FAX 0854-86-0501

<エコサボしまね> 〒690-0887 島根県松江市殿町8-3 TEL 0852-67-3262

しまね自然と環境財団は、三瓶自然館等の指定管理者です。
エコサボしまね (松江事務所) では、地球温暖化対策等の事業を行っています。

Sanbe Field Museum News

さんべ発!

No.192

2025年9月号

島根県立三瓶自然館 ニュースレター



太古の「方位磁石」

“普通の石” に壮大な大地のドラマが記録さ
れていることがあります。

写真は火山活動でできた岩石(大田市温泉
津町の海岸) です。このような岩石には、し
ばしば形成された時代の地球磁場の方向が記
録されています。目に見えない方位磁石がそ
の時代の磁北を指したまま固定されているイ
メージです。

この目に見えない方位磁石は、日本列島形
成史の解明に役立ちました。その研究は石見

地方の火山岩類を対象に始まり、異なる時代
の磁石の方向を調べると、1500万年前を境に
60度のずれがあることが分かりました。東日
本の岩石も調べると磁石が逆向きにずれてお
り、東西の日本列島が扉が開くような回転をし
て、今の形になったことが明らかになりました。
これは現在の定説になっています。

石見の岩石が発端になったのは、研究の中
心にこの地域の火山岩に詳しい大田市出身の
地質学者がいたためでした。

01 秋の七草

「春の七草」と「秋の七草」

「七草」と聞くと、どんなものを思い浮かべますか？お正月の食べ過ぎで弱った胃を整える七草がゆ、その材料となる「春の七草」が有名どころでしょう。

そして、春の七草と対比されるように紹介されるのが「秋の七草」。こちらは食用ではなく、美しい花を愛でるもの。そのため秋の野山で目を引く、可憐な花をもった草花が取り上げられています。

秋の七草のはじまり

奈良時代を代表する歌人、山上憶良が詠んだ「秋の野に咲きたる花を指折りかき数うれば七種の花」、これに続く「萩の花 尾花 葛花 撫子の花 女郎花 また藤袴 朝貌の花」がもとになっています。

歌中の7つの植物は「秋の七草」と呼ばれ、現在に至るまで、秋を代表する草花として親しまれています。それぞれ、ハギ（ツクシハギ、ヤマハギなど）、ススキ、クズ、カワラナデシコ、オミナエシ、フジバカマ、キキョウがあたるとされます。

このうち、代表的なものを3つ紹介します。



カワラナデシコ



オミナエシ



クズ

カワラナデシコ

緑色の野山の中で、ピンク色の花がひときわ目を引きまします。花びらは5枚で、その先は細く裂けています。花のかわいらしい様子を、撫でたくなるような子に見立てたことが、名の由来といわれています。

オミナエシ

茎の先に黄色い小さな花をたくさんつけ、草むらの中でも目立ちます。きれいな花に誘われて顔を近づけると、独特の匂いが漂ってきます。どちらかというと悪臭と感じる人の方が多いようです。花を眺めていると次々と虫がやってきますので、虫には魅力的な匂いようです。

クズ

何にでも絡みつきのながらぐんぐん伸びて、私たちを困らせることが多いクズですが、意外と見栄えのする花をつけます。花は良い香りがしますので、ぜひ匂ってみて下さい。厄介者のイメージが強いですが、根からデンプンをとって葛粉にしたり、葛根湯という薬として用いられたりする、有用植物です。

おすすめの散策コース

秋の七草を楽しみたい方には、三瓶山の山麓に広がる西の原や北の原がおすすめです。いずれも、なだらかな草原が広がり、中には散策ができる遊歩道があります。そして何より、三瓶山ではフジバカマ以外の6種類の草花を見ることができるのです。フジバカマはありませんが、よく似た花をつけるサワヒヨドリという植物があります。

ちなみに、7つの名前を覚えられない、とお嘆きの方へ。オミナエシ、ススキ、キキョウ、ナデシコ、フジバカマ、クズ、ハギの頭文字をとって、「おすきなふくは（お好きな服は?）」と覚えるといいそうです。

（副館長 井上雅仁）

三瓶山西の原で秋の七草を楽しむ様子▶



02 インターネット中継も実施！ 皆既月食



2022年11月8日の皆既月食＝サヒメルで撮影



◀皆既月食のライブ配信は左のQRコードからご確認ください。アーカイブの視聴もできます。

配信サイト：<https://youtube.com/live/vIAMAjgvXOY>

月が地球の影に完全に隠される皆既月食が、9月8日に起こります。皆既月食の間、地球の大気で屈折したわずかな光に照らされ、赤っぽく光る月をぜひ見てください。肉眼で十分で観察できますが、双眼鏡を使うと色がよく分かることでしょう。

8日の午前1時27分から満月が欠けたように見え始め、2時30分に月がすっぽり地球の影に入る皆既月食となります。3時53分に皆既月食が終了し、だんだんと月が影から抜けていきます。4時57分には元の満月に戻ります。これは8日の夜ではなく、7日を過ぎた未明から明け方の現象ですので日付にご注意ください。

サヒメルの天文台では月食の模様を、月の欠け始めから終わりまでインターネットで生配信しますので、肉眼での観察とあわせてお楽しみください。平日なので難しいという場合は、後からの視聴もできますよ。

（学芸課天文事業室 竹内幹蔵）